



# TCA

— NEWS —

Vol.109 9月号

発行  
富山市民国際交流協会  
〒930-0002 富山市新富町一丁目2番3号  
CiCビル3F富山市国際交流センター内  
TEL(076) 444-0642 FAX(076) 444-0643  
発行責任者 広報・組織強化委員会

歩いて知ろう! 学ぼう! ふれあい! とやまの魅力発見!

## とやま巡り ~立山室堂平・桜めぐり・吳羽山~ 外国人の人たちに癒しと楽しさいっぱいの「ふるさと富山」を伝えたい

ボランティア委員会



立山室堂平 枯れたハイマツ

東日本大震災の影響により地獄谷から吹き出している火山性ガスの放出量が増加し、亜硫酸ガス等の濃度が高くなっている。



立山室堂平

火山が作り出す溶岩の造形「板状節理」

玉殿岩屋に向かう。岩屋の上には、弥陀ヶ原火山が最後に噴出させた溶岩で、約6~4万年前の板状節理(岩石の規則的な割れ目)を見ることができる。



富山中央植物園で桜めぐり

「富山さくらの名所70選」のひとつで、140種類520本の桜が植栽されている。谷崎潤一郎「細雪」のお花見シーンで有名なシダレ桜「八重紅枝垂」は、日本人の大好きな独特な垂れ下がった姿。その優美な姿に誰もが魅了される。



吳羽丘陵(吳羽山)のダイナミックに隆起した大地の痕跡

吳羽山断層帯の西側が持ち上がってできた吳羽丘陵。丘陵の西側はゆるやかな斜面になっているが、東側は急激に落ち込む「急崖地形」。これは隆起した吳羽丘陵の東側に接して流れていった古神通川に削り取られた「側方浸食」によるもの。

## 富山市総合防災訓練

語学ボランティアとして参加しませんか。

日 時 10月6日(日) 8:30~12:00

場 所 大沢野地区 ※会場までバスを用意します。

言 語 英語、中国語、やさしい日本語

内 容 避難所での通訳・巡回訓練、情報翻訳、  
参加機関の見学・体験、参加外国人への  
防災オリエンテーションなど

締切り 9月12日(木)

〈事前研修会〉

日 時 9月14日(土) 13:30~15:00

場 所 富山市国際交流センター会議室(CiC 3F)

総務企画委員会「国際交流 TCA カレッジ」

姉妹友好都市委員会「特別講座」

## 草の根ボランティア

～物資や義援金を現地まで届ける原動力～

講 師 川渕 映子さん

(NGO アジア子どもの夢 代表)

日 時 11月9日(土) 14:00~15:30

場 所 富山市国際交流センター会議室(CiC 3F)

定 員 定員48名(要申込み 申込順)



## 令和6年度総会報告

富山市国際交流センター会議室

5月22日(水)

庵栄伸会長より開会の挨拶があった後、事務局から令和5年度事業報告・収支決算報告、続いて、令和6年度事業計画・収支予算案が説明され、承認されました。また、任期満了に伴う役員の選任案も承認されました。

### 総会講演会

#### 「災害時の外国人支援」

～能登半島地震を踏まえて見えてくること～

講師 NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 柴垣 穎さん

柴垣氏は県の職員として2007年の新潟県中越沖地震の救援活動に従事、その中で外国人被災者をいかにサポートしていくか身をもって体験され、その経験をもとに災害時に外国人を支援するための多言語マニュアルの作成や、支援関係者らをコーディネートする全国組織作りにも携わられたそうです。



1月の能登半島地震でも発生直後から石川県多言語支援センターの活動をサポートされました。

多くの外国人は災害時にどう行動すればよいかわかりません。そんな時、やさしい日本語で避難所へ行くことを呼び掛けたり、必要なアドバイスをしたりすることが求められます。

また、多言語に対応するサポートの配置も必要です。市町村の地域防災計画要配慮者の特性にあわせた切れ目のない支援の必要性も強調されました。

これまで自然災害の少なかった富山で、今後起こりうる災害に対してどのように外国人をサポートしていけばよいか考えさせられる講演でした。

## 第31回北陸都市国際交流連絡会総会・研修会

7月5日(金) オンライン(金沢国際交流財団)

この連絡会は、北陸3県の国際交流協会・財団や行政機関の情報交換を目的として平成6年に設立されました。毎年持ち回りで総会・研修会を開催しており、今年度は石川県での開催でした。能登半島地震の発生から、まだ復旧できていない地域に配慮して、オンラインとなりました。

総会後の研修会では、前半、NPO法人YOU-I 山田 和夫さんより「能登半島地震における外国人被災者支援活動について」の講演がありました。

講演の中で、災害に備えて大切なことは、日頃からの繋がりであり今回の災害における支援に繋がったとのお話がありました。また外国人に起きていた問題として、①災害に関する「ストック情報」\*がない上に、②災害当時は休日で周りに日本人がいなかったため「情報孤立」になったこと、③支援金情報がないので申請ができない、④技能実習生の転籍(転職)が困難などが挙げられました。

また、「Last One Mile」(被災者が救援物資やサービスを受け取るまでの最後の区間)について、99%の支援活動では外国人被災者には届かないで、最後まで100%サポートし、到達を確認することが大切です。

後半は8つのグループに分かれ、地震発生時の様子や支援活動、今後の取り組みについて情報交換をしました。

\*「ストック情報」…災害時に発表される「フロー情報」と異なり、その前に蓄積されてきた知識や経験を指します。

## 外国語ボランティア養成講座

第1部は講演を聴き、第2部は語学研修として英語、中国語のグループに分かれて、必要な語彙や表現を練習しました。

### 第1回 6月22日(土) 参加者51名

#### 第1部 講演 「富山県における在住外国人の状況について」

講師 富山県国際課 課長補佐・多文化共生係長 嘉戸 史美さん

県内の外国人住民数は増加傾向にあり、令和5年度、国籍別では、ベトナムが最多である。また増加率を見るとインドネシア(前年比741人増)とベトナム(前年比658人増)の両国籍者が特に増えている。在留資格別では、「研修・特定活動・技能実習・特定技能」が全国平均の約2倍となっている。ベトナムは約4人に3人がこの資格で県内に住んでいることになる。中でも、技能実習の割合がずっとトップを占めてきたが、最近では特定技能の割合も増えてきている。産業別にみると半数以上が「製造業」に従事していることになり、また職業別だと「生産工程従事者」が半数以上を占め、富山県の産業形態をよく反映しているといえる。外国籍児童生徒数も増加傾向にあり、それに伴って日本語指導が必要な児童生徒も増えているが、特に母国語がポルトガル語の児童生徒が最も多い。県内の留学生の数は新型コロナウイルスの影響で若干減少したが、また令和5年度には微増が見られた。県では相談窓口を設けたりしてこれらの外国人の受け入れに積極的に取り組んでいる。

#### 第2部 語学研修 生活情報

生活に関する情報提供の語彙表現を学びました。

生活情報ガイドの紹介、雷鳥だより(新札発行)、ゴミの出し方など

### 第2回 7月27日(土) 参加者 36名

#### 第1部 講演 「もしもの災害に備えて」

講師 富山市防災危機管理課 主幹 経塚 陽子さん

地震・津波、風水害などの状況をデータやハザードマップ、動画を使って説明があった。いつどこで起くるかわからない災害の恐ろしさを実感させられた。

今回のタイトル「もしもの災害に備えて」にもあるように、日頃の備えが非常に重要である。

阪神・淡路大震災での検証によると、救助された人の約95%は、自力または家族・隣人等により救助(「共助」)されたという。また家屋は大丈夫でも、家具の転倒による被害が多かった。家の中の安全対策も重要であり、最近は家具を固定するための様々なツールがある。(食器棚用の滑り止めシートや飛び出し防止枠、開放防止金具、テレビ用の耐震粘着マットなど)

非常持ち出し品や備蓄品の準備については、ローリングストック法<sup>\*1</sup>で準備しておくといい。

富山市のWebサイトには地震、洪水、津波、土砂災害、内水ハザードマップ(内水氾濫)<sup>\*2</sup>、また防災情報を把握するため「富山市公式LINE」、「ヤフー防災速報」、「耳で聴くハザードマップについて(Uni-Voice Blindアプリ)」などがあるので、各自で確認しておくとよい。

\*1 ローリングストック法とは、普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法。

\*2 内水氾濫…大雨によって排水が追い付かず、用水路やマンホールなどから水があふれだす。



#### 第2部 語学研修 「防災に関する表現」

緊急地震速報、日ごろの備え、防災アプリやWebサイトの紹介を伝える練習をしました。

## MPBで学ぶポルトガル語講座

講師 白川 セリナ サナ工(当協会ポルトガル語相談員)

毎回いろいろな歌を通してポルトガル語を勉強しています。

4月 8日(月) Jose(Rita Lee)

5月13日(月) Trem das Onze(Demonios da Garoa)

6月10日(月) Borbulhas de Amor(Fagner)

7月 8日(月) Deixa Acountecer(Grupo Revelacao)

外国人住民数 上位7国籍及び構成比  
令和5年度(令和6年1月1日)

順位	国籍	住民数	構成比
1	ベトナム	5,462	24.9
2	中国	4,259	19.4
3	フィリピン	2,701	12.3
4	ブラジル	2,411	11.0
5	インドネシア	1,802	8.2
6	韓国	778	3.5
7	パキスタン	713	3.2

資料出所：県国際課「富山県内外外国人統計」

# 委員会報告

ボランティア とやま巡り① 桜見学 参加者 15名(日本人7名、外国人8名) 4月7日(日)

場所 富山県中央植物園

「とやまさくら守(もり)」でもある委員長の大野さんから桜にまつわる話を聞きながら植物園内をまわりました。園内には140種、520本のサクラが咲きみだれ、中にはコシノフユザクラ(越の冬桜)、コシノフクカサネ(越の福かさね)、フタカミザクラ(二上桜)などと富山県由来のサクラもありました。

また、皇后陛下雅子様のご成婚を記念として名付けられた品種「プリンセス雅(みやび)」はどのサクラよりも華やかで鮮紅色でした。

日本の桜の代表的な品種ソメイヨシノ(染井吉野)の300mにおよぶトンネル「花のプロムナード」も見事でしたが、テング巣病という伝染病にかかりやすいこと也有って、今後の日本の桜の代表は神代曙(ジンダイアケボノ)という品種に代わっていくだろうとのお話を聞きました。

今日は、いろんな話を沢山聞けたので、これからはもっと春を楽しめそうです。外国人参加者の皆さんとの会話も楽しく充実した時間を過ごせました。

ボランティア とやま巡り② 岸羽山 参加者 19名(日本人8名、外国人11名) 5月12日(日)

転勤で富山市に来た際当会に入会、その場で案内があった岸羽丘陵巡りに参加させて頂きました。初めての参加でしたが、ボランティアの方のフレンドリーな雰囲気の中、自身からも外国人参加者の方に積極的に話しかけることができました。外国人参加者の方は日本語の堪能な方も多く、日本語でのコミュニケーションでほぼ問題ありませんでした。また、ナチュラリストの方の説明も非常に興味深く、外国人の方と交流すると同時に自身もとても楽しめ、非常に充実した時間を過ごすことができました。

(会員 川田 健)

ボランティア とやま巡り③ 立山室堂平散策 参加者 25名(日本人18名、外国人7名) 7月21日(日)

立山は国内はもとより海外からも人気の観光地ですが、外国人にとっては予約の煩雑さや交通費の高さがネックとなっています。そこで富山在住の外国の方たちにもぜひ訪れてもらいたいという思いからこの企画が2年前からスタートしました。

大野委員長ほか2名のナチュラリストが同行し、各所で解説をしてくださったので、立山の自然をより深く理解することができました。

また、参加者全員が美しい自然とおいしい空気を共有し、言葉の壁を超えて楽しく交流できたことは貴重な体験でした。この「とやま巡り」に参加した人たちによって、立山の美しさや自然の営みのすばらしさを全世界に向けて発信してもらえたならと思います。

とやま巡り～立山室堂平に参加して～

Amin Hafdaoui(イタリア・ウーディネ出身)

今年の7月、私は立山を訪れ、夏の蒸し暑さから逃れることができた。標高2,500メートルの立山では、心地よい天候に恵まれ、忘れがたい素晴らしい景色を堪能した。雪がまだ溶けておらず、河のように横たわり、それほど遠くないところに海が見えた。私はイタリアアルプスの近くに住んでいるが、立山のような景色を体験したことはない。

日本アルプスでの夏のハイキングは、知識豊富なナチュラリストのおかげでさらに特別なものになった。言葉の壁があったにもかかわらず、ナチュラリストの方の明快でわかりやすい説明のおかげで、この立山について多くを学ぶことができた。雷鳥には出会えなかったが、また来て、雪のように白い羽と赤い眉毛の、まるでクリスマスの準備をしているかのような雷鳥を見たいと思う。

このような素晴らしい旅を企画してくださり、一生の宝物になるような体験をさせてくださってありがとうございました。

(原文はP8にあります。)

文化交流 折紙&七夕短冊作り体験 参加者 14名(日本人8名、外国人6名) 6月23日(日)

折り紙と言えば鶴を思い浮かべますが、折り鶴に加えて先生に教えてもらうのは、毎年ユニークな作品で、今回は「ぴょんぴょんカエル」です。

完成後は、カエル飛ばし競争を子どもはもちろん、大人も童心に帰って樂しみました。

最後に、短冊に願い事をしたため、折り紙とともに七夕の笹に飾り付けました。いろいろな言語で書かれた短冊を見て、七夕飾りも多文化共生しているなあと感じました。



日本の七夕は中国での行事が由来とされています。  
中国ではどうでしょうか？ 答えはP8にあります。

国際教養 多国言語文化交流クラス「クロアチア&クロアチア語」

5月7日(火)

講師 セヴェル ドマゴイさん

“アドリア海の宝石”と称えられるクロアチア。1,100以上の島から成る。

講師のドマゴイさんは、クロアチアの歴史や文化、観光について流暢な日本語でお話してくれた。

お祭りとして2つ紹介があった。一つは、「Vuzmica(復活祭の炎)」で、復活祭の行事の一つであり、イエス・キリストの復活と魂の永遠の命を祝う。余分なブドウの木の枝と葉を燃やすので、宗教と農業の組み合わさったものだ。

2つ目は、聖マルティンの日(Martinje・収穫祭)で、11月11日に全土で祝われる。聖マルティンはワインの守護者である。9月にブドウを収穫し、つぶしてジュースにする。聖マルティンの日に「洗礼」の儀式の後、試飲して消費できる状態になる。その日はワインの飲み放題、肉の食べ放題で、新し小ワインを祝う。

人々は友達や家族と一緒に食べたり飲んだりするのが好きである。特にコーヒー文化は特別で、とても重要である。人と人との繋がり大切なもので、「cafénisanie」と呼ばれる。

クロアチアは、ネクタイの発祥の地で、クロアチアの兵士が傭兵としてフランスを訪れた際に、ルイ14世の目に留まりフランスで大流行した。毎年10月18日はネクタイの日とされ、イベントが開催される。また、ディズニー映画「101匹わんちゃん」でおなじみのダルメシアン犬はクロアチアのダルメシア地方が原産である。ドゥブロブニク市は、ジブリ映画「魔女の宅急便」のモデルとなつた街だと言われている。

2002年日韓FIFAワールドカップ開催時、クロアチア代表チームが、富山市でキャンプを行ったのが懐かしく思い出された。

日本から遠い国のように思うが、クロアチアをとても身近に感じたひとときだった。

国際教養 英語通訳・ガイド実践クラス 塗地研修 参加者 25名(日本人21名、外国人4名) 7月20日(土)

訪問先 高志の国文学館、松川べり、船橋常夜灯

担当者の方の説明を外国人参加者に順番に説明していくのだが、それぞれの展示が魅力的かつ難解で、なかなか時間通りには終わらないようであった。高志の国文学館は市の中心部近くにもかかわらず、自然が保たれた静かな空間で、何度訪れても新しい発見がある。富山の人たちが自分たちの文化の高さを誇れる文学館である。見学後、会食の場所まで歩いていく途中で松川の舟橋の説明や馳せ越し工事、それに関連して元の神通川の幅を示す2つの常夜灯のことを説明すると、外国人参加者がとても興味深そうに聞いていた。また気持ちのいい散歩ができたと思う。



## 広報・組織強化

# 富山に住む外国のひとたちへ **雷鳥だより** やさしい日本語・英語・ベトナム語版) 発行しました

- Vol.9(6月号)  
イベント情報、新しいお札、呉羽山丘陵フットパス
- Vol.10(9月号)  
イベント情報、八尾「おわら風の盆」、防災アプリと  
Webサイト

皆さんのご意見やご提案をお待ちします。  
(協会Webサイト<https://tca-toyama.jp/>参照)



当協会のHPで見れます。

# お知らせひろば

お申し込み・お問い合わせは当協会まで  
TEL 076(444)0642 FAX 076(444)0643  
E-mail info@tca-toyama.jp

日 時	講座・イベント	定員(名)	ところ	担当委員会	会 費	対 象
9月14日(土) 13:30~15:00	富山市総合防災訓練事前研修会	30	当センター	合同	無料	会員・一般・外国人
9月29日(日)	外国語ボランティア養成講座実地研修	35	国宝勝興寺 雨晴	合同	交通費等	会員・外国人
10月6日(日) 8:30~12:00	富山市総合防災訓練参加	30	大沢野地区	合同	無料	会員・一般・外国人
10月14日(月・祝) 9:30~17:00	国内研修	25	高山・神岡	総務企画	4,000円	会員
10月20日(日) 13:30~15:00	和菓子作り体験	20	松川茶屋	文化交流	未定	会員・外国人
10月26日(土)	とやま巡り④	20	八尾町福島(井田川)	ボランティア	無料	会員・外国人
11月5日(火) 18:30~20:00	多国言語文化交流クラス 「フランス・アルザス地方」 Ms. Marie Wintzer	24	当センター	国際教養	会員無料 一般300円	会員・一般
11月9日(土)	国際交流 TCA カレッジ・姉妹友好都市 研究講座「草の根ボランティア」	48	当センター	総務企画・ 姉妹友好都市	無料	会員・一般
12月15日(日) 13:30~15:30	ミニ門松作り	20	当センター	文化交流	未定	会員・外国人
2月2日(日)	国際交流フェスティバル in Toyama	—	オーバード・ホール／ 中ホール	合同	無料	—
2月	私たちの活動説明会	—	当センター	合同	無料	会員・一般
3月2日(日) 13:30~15:00	華道体験	20	当センター	文化交流	未定	会員・外国人

※行事については、ホームページ <https://tca-toyama.jp/> でご確認いただくか、協会までお問合せください。

※休館日(9月~3月)・・・9月 17日(火)、10月 15日(火)、11月 19日(火)、年末年始(12/29~1/3)、1月 21日(火)、2月 18日(火)  
19日(水)、3月 18日(火)

## 今年度の「国際交流フェスティバル in Toyama」は 令和7年2月に開催します！

**開催日** 令和7年2月2日(日)

**会 場** オーバード・ホール／中ホール

**内 容** 世界の歌と踊り、国際交流・団体ブース、各国紹介ブース、日本伝統文化体験 等

**共 催** 富山市民国際交流協会、(公財)とやま国際センター、(独)国際協力機構北陸センター



## 会員募集中！

富山市民国際交流協会では、国際理解・国際交流や多文化共生のための事業を開催しています。一緒に活動してみませんか！入会をお待ちしています。

### 年会費

個人会員	3,000円
家族会員	5,000円
優待会員	大学生(短大生、専門学校生を含む。) 1,500円
	高校生 500円
法人・団体会員	10,000円



自転車で4年間をかけ世界各国を周った後、現在も旅を続け、今までに100カ国を旅されたWolfさんご夫妻。この50年で8度目の滞在となる富山について寄稿していただきました。

**Wir denken oft an das “alte” Toyama**



**Wilma und Wolf-Dieter Ahlborn(Journalist, Deutschland)**

“Haben Sie sich in Toyama verliebt?”, fragte uns jemand, weil wir so oft in dieser Präfektur waren. Es begann 1975, alles in allem waren es über vier Jahre. Vor 49 Jahren haben wir eine Stadt am “Rücken” von Japan gesucht. Ehrlich gesagt, gefiel uns Toyama auf den ersten Blick nicht. Daran war die Umgebung des Bahnhofs schuld. Wir blieben aber ein Jahr, denn wir sahen, dass es auch ein ganz anderes Toyama gab, das der netten Menschen. Wir wohnten damals zwischen dem Fluss und dem Kurehayama und hörten das Rattern der Züge nach Takaoka und Yatsuo. Ganz nahe begannen die Reisfelder. Heute ist dort alles mit neuen Häusern bebaut.

1975 gab es in Toyama nur 10 Ausländer. Damals riefen uns Kinder noch “Gaidchin, Gaidchin!”, hinterher und es konnte sein, dass ein Baby weinte und seine Oma sagte: “Nun weine doch nicht, sieh mal, wer da kommt, zwei Gaidchin!” und das Kind dann lächelte. Heute erregen Ausländer keine Aufmerksamkeit mehr. Die Menschen haben es auch immer eilig und sie sind weniger aufgeschlossen gegenüber Fremden. Aber wir haben viele Freunde, teils schon seit Jahrzehnten.

Mit wenigen Worten zu beschreiben, welche Veränderungen wir bemerkt haben, ist schwierig. Früher gab es nur ein paar Hochhäuser, und die waren nicht so hoch wie heute. Aber das ist eine alljapanische Erscheinung, so auch, dass der Verkehr auf den Hauptstraßen erschreckend ist, während diese fast menschenleer sind. In den Gassen und in den Parks der Stadt spielen keine Kinder mehr. Wo sind die Wagen geblieben, von denen in den Wohnstraßen Gemüse und Obst verkauft wurden? Wo sind die Leute, die gebratene Süßkartoffeln ausriefen? Arme “Chuō-dōri” in Toyama wie auch anderswo, wie etwa in Takaoka und Uozu! Die Leute gehen zu Einkaufszentren. Ein spezielles Phänomen in Toyama ist, dass leider fast alle Parks in schlechtem Zustand sind. Aber die ganze Stadt ist blitzsauber. Wer das schmutzige Toyama (und Japan) bis 1985 gekannt hat, weiß das sehr zu schätzen. Unverändert schön sind die Landschaften außerhalb der Stadt.

Unsere erste gute Japan-Erfahrung machten wir 1968, als wir das Land drei Monate mit Fahrrädern bereisten. Danach sagten wir: “Wir werden wiederkommen!” Das taten wir noch oft und haben es nie bereut, auch wenn vieles so anders geworden ist. Aber heute denken wir oft an das “alte” Toyama von vor 50, 40 und 30 Jahren.

※和訳※

**あの「昔」の富山をよく想い出す**

**ウィルマ・アールボーン&ウォルフ・ディーター・アールボーン(ジャーナリスト・ドイツ出身)**

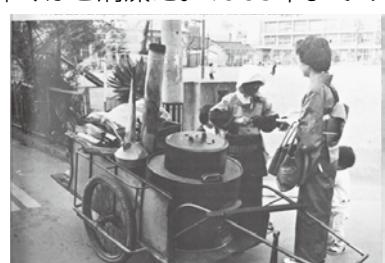
富山県を頻繁に訪れていたので、「富山に恋したのですか?」と某氏が尋ねた。富山県での滞在は、1975年に始まり、富山での滞在が通算して4年を超えた。49年前、私たちは日本の“裏側”(日本海側)にある町を探し出した。正直なところ、富山は最初、気に入らなかった。駅周辺がその理由だった。それでも私たちは1年間富山に住んだ。まったく違う富山、すなわち、親切な人々のいる富山を知ったからだ。当時、私たちは神通川と呉羽山の間に住んでいて、高岡や八尾行きの電車のガタゴトと走る音が聞こえた。田んぼがすぐ近くに広がっていた。現在は、そこは全て新しい家で埋め尽くされている。

1975年当時、富山には外国人が10人しかいなかった。その頃、私たちは、子どもたちに、通り過ぎると「ガイジン、ガイジン！」と呼ばれ、赤ちゃんが泣いていると、祖母が「泣かないで、ほらガイジンが2人来るよ」と言うと、赤ちゃんが微笑んだ。今では、外国人が来ても注目を浴びることはない。人々はいつも急いでいて、見知らぬ人に対して心を開くことも少なくなった。しかし私たちには多くの友人がいて、中には、数十年来の友達もいる。

私たちが気づいた変化を一言で表現するのは難しい。昔は、高層ビルは数えるほどしかなかったし、しかも高さは今ほど高くはなかった。これは日本ではどこでも見られる現象である。メインストリートでの交通量は恐ろしいほどなのに、人通りはほとんどない。路地や公園で遊ぶ子供たちもいなくなってしまった。果物や野菜を売っていた屋台はどこへ行ってしまったのだろう。石焼き芋と叫んでいた人们はどこに行ってしまったのか？富山や高岡、魚津の「中央通り」も閑散としている。人々は大きなショッピングモールに出かける。富山の特殊な現象だが、残念ながらほとんどすべての公園があまり整備されていない。しかし、街全体は輝くほど清潔だ。1985年までの汚かった富山(そして日本)を知っている人なら、このことを本当に賞賛することができる。郊外の風景も相変わらず美しい。

私たちの最初の素晴らしい日本体験は1968年である。私たちは3ヶ月間自転車で日本を旅した。その後、私たちは「また来よう！」と言った。何度もそうしてきましたし、多くのことが変わったけれど、後悔したことは一度もない。しかし今日、私たちはしばしば50年前、40年前、30年前の「昔」の富山を思い出すのである。

※Wolfさんの富山に関する記述がある著書は富山市立図書館にあります。  
〔Weit über Land und Meere〕他2冊)



1975年総曲輪小学校前の石焼き芋売り  
出典 [Weit über Land und Meere]

## ボランティア とやま巡り～立山室堂平に参加して～

Amin Hafdaoui(イタリア・ウーディネ出身)



ふるさと「イタリアアルプス」はヨーロッパアルプスの一部です。

This July I had the pleasure of escaping the summer heat and humidity by visiting Mount Tateyama in Toyama Prefecture. At 2,500 meters above sea level, we enjoyed pleasant weather and stunning landscapes that were truly unforgettable. Although I live near the Alps, I have never experienced a view like the one on Mount Tateyama, where snowy valleys had yet to melt and the sea was visible not too far away.

Our summertime hike in the Japanese Alps was made even more special by our knowledgeable guide, Ohno San. Despite the language barrier, her clear and simple explanations allowed me to learn a great deal about the area. Though we didn't spot a raichou or a ptarmigan, I'm determined to return in winter to see its snow-white feathers and red eyebrows, as if ready for Christmas.

Thank you, TCA, for organizing such a wonderful trip and for providing me with an experience I'll cherish forever.



「日本アルプス」立山には岩峰や雪渓の多いヨーロッパアルプスに似た景観が見られます。

(訳文はP 4にあります。)

### 国際教養

#### 多国言語文化交流クラス



5月7日(火)  
クロアチア&クロアチア語  
セヴェル ドマゴイさん



7月2日(火)  
南アフリカ共和国 & ズールー語  
Mr. Sithembiso Nkosi

#### 英語プレゼンテーション



6月4日(火)  
Mr. Joshua Garcia  
"The Multilingual Brain and Secrets to Language Acquisition"

### 知っていますか？中国の七夕

## 中国の七夕のお話

錢 輝(当協会中国語相談員)

中国の伝統的な祝日の中で、旧暦7月7日の七夕は、最もロマンチックなバレンタインデーです。



### おはなし

織女は天の天女で、人間の牽牛と結婚すると、織女は機織り、牽牛は畑を耕して、幸せに暮らしました。二人の間には、男の子と女の子が産されました。

ところが、織女と牽牛が結婚したことを天帝と王母に知られると、天帝はとても怒って、使者に織女を天に連れ戻すように命じました。牽牛の留守の間に、織女は天に連れ戻されてしましました。それ以来、牽牛と織女は悲しみで涙がいっぱいになりながら、川を隔てて向かい合っていました。天帝も王母も、彼らの気持ちに勝てず、毎年7月7日に一度だけ会うことを許しました。

中国では、七夕の夜遅くには、ぶどう棚や果物棚の下で、牽牛と織女が天でささやきあう声を聞くことができると言われています。

また、織女は美しく聰明で手先が器用な天女で、女の子たちはこの夜、天の織女に聰明な心と器用な手を与えてくれるようにと願います。編み物の技を習熟させ、さらに恋愛結婚の縁をうまく取り合うようにと乞うことから「乞巧奠」(雛祭りのようなもの)とも呼ばれています。

### 編集後記

暑い夏、皆が熱狂したオリンピックも終わりました。違う国同士が、決まったルールのもとフェアプレーで競い合う、そして試合終了後はノーサイド、お互いの健闘を称えあう、これこそ国際交流の神髄のように思えます。

一方で、今や国境を越えて多くの人が移動する時代になりましたが、それに伴い色々な問題も生じています。果たしていつになるとジョン・レノンのイマジンのような世界は来るのでしょうか？(川除)